

夢

ティム・ジャキンス——2004年春、オランダでのワークショップで

私たちは夢を見ます。毎晩夢を見ます。夢を思いだせるときもあれば、夢を見たことは覚えていても、思いだせないときがあります。けれども、だれもが毎晩夢を見ているようです。夢は往々にして人間の心が傷に取り組もうとする試みの一つです。夢は取り組むべきセッションのテーマについて重要なヒントを与えてくれます。夢を分析してもうまくいきません。それに、夢は非常に混沌としているので、分析しようとするのは時間の無駄です。

とにかく自分の見た夢について話してみてください。何を思いだすでしょう。それはいろいろな傷が混ぜ合わさったもののはずです。傷はビーズの首飾りのようにつながり合っています。最初にあるやり方で傷つき、また別のやり方で傷つく……というふうに延々と繰り返されます。たとえば、自分の人生のなかで10人の人が去っていったとします。それぞれの傷は互いにつながっていて、新しい傷が古い傷を再刺激します。すると、この種の傷に関連した夢を見ると、この10人全員が混ぜ合わさり、その人たちがいた場所も混ぜ合わさります。だから、どこか見覚えがあるのだけれど、どこか何か違う感じがします。

夢を覚えていたら、それをセッションで話してみてください。とにかく思いだせることを全部話すのです。二、三回繰り返して話してみてください。何を思いだすでしょう。夢は傷の上に立てられた旗のようなもので、注目をもらいたがっています。その夢をテーマに何度もすばらしいセッションができます。私たちのほとんどは子どものときに一生忘れることのできない夢を見ます。それには理由があります。セッションで一、二度話してみれば、その夢がある重要なことがらにつながっていることに気づくでしょう。夢は注目をもらいたがっている大きな旗です。私たちはその夢を20年も30年も覚えていません。それは重要なことなのです。

私たちは夢を毎晩見ているようです。ですから、たとえ思いだせなくても、毎朝夢について話すことは良いことです（なかには自分はまったく夢を見ないという人もいます）。夢を思いだせなかったら、こうしてみると良いでしょう。「夢を見なかった。まったく見なかった」あるいは「夢は見なかったけど、もし見たとしたらこんな夢……」ちょっとシンクアンドリッスンに似ています。私たちは自分の考えに責任を持たなくて良いとなると気楽な気持ちになれます。より自由にものごとを思いだせるようになります。

質問：楽しい夢はどうですか？ 楽しい夢も重要ですか？

ティム：もちろん、とても重要です。楽しい夢を見るのは、傷に打ち勝って前進したときです。私はそんな夢を見たことがあります。初めてRCのクラスを教えようとしていたときです。1970年のことで、それまで私はRCのクラスを教えたことはありませんでした。私はサンフランシスコのベイエリアに住んでいました。その頃RCコミュニティはシアトル以外の場所にまだなかったのですが、パークリーのあるグループがクラスを教えられる人を探していて、父が私にやってみたらと勧めたのです。近くにRCerは一人もいませんでしたし、グループの人たちはRCについて何も知りませんでした。私たちはそのとき25歳で、グループの人たちはみな50歳以上でした。グループの中には心理学者も何人かいて、私はそのことで何度もセッションをしました。最初のクラスが行なわれた前の晩、私は20人の人と戦って勝つ夢を見ました。クラスは最高でした。どうやら人は、傷への取り組みがひと山越え、傷を乗り越えつつあることを意識したとき、楽しい夢を見るようです。

傷に対するコントラディクションとなる夢を見る場合もあります。たとえば、自分がある人をどんなに愛しているかを夢の中で思いだし、幸せな気持ちで目覚めることがあります。その夢のおかげで世界が変わったように思えます。しかし、実際に変わったのは自分自身のものの見方なのです。

Dreams

プレゼントタイム 2005年1月号 22 ページより

Tim Jackins

翻訳 高坂明雄

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります。(翻訳文 2005 年。原文 2005 年)。
この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。